

文教厚生委員会会議録（要点筆記）

令和5年6月28日（水）
午後2時00分開会
場所：委員会室

○坂井美穂委員長

ただいまから文教厚生委員会を開催します。本日は、閉会中の調査事項に係る勉強会ということで、介護人材の確保と介護サービスの最適化という2つのテーマについて、当局よりご説明いただきます。

○大崎千尋福祉主事

（介護人材の確保について、資料に基づき説明）

○坂井美穂委員長

説明は終わりました。介護人材の確保について、ご質問等ありましたらお願いします。

○田中嵩久委員

半田市で具体的にどの職場でどの程度不足しているといった、データはありますか。

○大崎千尋福祉主事

具体的な数字はありませんが、事業所側が、利用者のニーズに合わせた人員体制の調整をかなり行っている現状があり、かなり負担がかかっている状態です。

○田中嵩久委員

第8次介護保険事業計画の介護サービス見込量について、必要な時に必要な場所で必要な人数を提供するためにはというところを考えると、漠然と足りてなさそうなことはわかるのですが、どのあたりを目指して、介護人材を確保していけばよいのかということが分からなかったので、私も勉強してみます。

○渡邊昭司副委員長

ヘルパーは、資格を持つ人のうち、2割から3割程度しか、従事していないということを耳にしたことがありますが、ヘルパーの資格保持者の全体数の把握の数は、把握できるのでしょうか。

○大崎千尋福祉主事

ヘルパーのうち、国家資格をもつ介護福祉士については、全体数を把握できます。ヘルパーは、おそらくかなりの潜在資格者がいるのではないかと思います。資格は持っていますが、実務をやっていない方へのアプローチができると人材不足が少しは解消されるのではないかと思います。

○渡邊昭司副委員長

過去に働いていた方については、事業所は把握していると思いますが、やはり個人情報に関係もあるため、その情報を自治体に提供いただくことは難しいのでしょうか。また、市内施設でヘルパーの資格を取得できる講義を行っている事業所はないのでしょうか。

○大崎千尋福祉主事

情報提供については、やはり個人情報に関係もあるため、難しいと思います。講義については、市内でも1か所初任者研修を行っているところがありました。その事業所の方にお話を聞く機会がありましたが、以前は、受講した法人にほとんどの人が登録をしてくれて、働き手として、働いてくれていましたが、最近は、別の事業所で働いていて、資格だけをそこに取りに来るというパターンがほとんどで、自分のところで研修を開催しても、自分のところの職員にはほとんどなってもらえないという話を伺いました。そういう状況から、現在は研修をしばらく実施しないと伺っています。

○渡邊昭司副委員長

介護人材の確保については、人件費の問題もやはりありますよね。

○大崎千尋福祉主事

報酬の単価は国が決めているものであり、確保は難しいところです。

○沢田義行高齢介護課長

介護報酬の中で、人件費の部分でいうと、介護福祉士については、処遇改善加算というのが新たにでき、その加算で、事業所も給料に跳ね返す財源につながっています。しかし、ケアマネについては、そういった加算がありません。また、介護福祉士でも、お金をかけて資格を取っても給料が上がらないというジレンマがあり、受験資格があってもケアマネになろうとしないといった状況があることを、事業者から聞いています。

○田中嵩久委員

半田市特有の課題はあるのかお聞きしたいです。理由は、少し古いですが、令和元年に実施された介護労働実態調査によると、介護職の離職理由のトップが職場の人間関係、2番目が、結婚、出産、妊娠、育児です。逆に収入が少ないは5番目に来ています。もともと志があって就労している人も多いかもしれませんが、半田市での離職につながるような声を聞いていけば、ぜひ教えていただければと思います。

○大崎千尋福祉主事

訪問介護の事業者に調査をしたことがあり、何が不安材料になっているかを聞いた際には、1人で家に行くので、ハラスメントに対する心理的負担の部分が大きいという声があって、ハラスメント対策ということで講師を呼んで、心のバランスのとり方や、上手な自分の気持ちの逃がし方などの対策をしたことはあります。1人で行ってその場で決断しなければいけない場面もあるので、そういったときの心配の声も聞かれました。

○坂井美穂委員長
しばらく休憩します。

休憩 午後2時41分
再開 午後2時42分

○渡邊昭司副委員長
会議を再開します。

○坂井美穂委員長
半田市で6月末締め切りのアンケートをされているということでしたが、その内容について教えてください。

○沢田義行高齢介護課長
内容的には、経験年数、性別、持っている件数、件数に対する負担感はどれくらいか、基礎資格は何か、などの項目に加えて、自由記載の部分があります。また、AIを利用したケアプラン作成についても聞いています。

○坂井美穂委員長
先ほど、基礎資格が違うことで、強みが違うとのことですが、アンケートによって基礎資格を把握する目的が明確であれば教えてください。

○大崎千尋福祉主事
ケアマネージャーになってくれる人は、どの職業の人がなってくれるのかを把握し、新規開拓につなげることが目的です。

○渡邊昭司副委員長
しばらく休憩します。

休憩 午後2時15分
再開 午後2時16分

○坂井美穂委員長
会議を再開します。

○渡邊昭司副委員長
アンケート項目については、他の自治体を参考にしたのでしょうか。

○沢田義行高齢介護課長

特に、他市町のアンケートを参考にしたといったことはありません。もともと、昨年末に市内の訪問看護ステーションが1つ閉じるといった話があったところから、ほかでも人材不足が進んでいるといわれ続けている中で、現状把握が必要ではないかといった意見が担当者会議の中で挙がったことから、実施したものです。

○渡邊昭司副委員長

アンケートの結果は、議会にも教えていただくことは可能でしょうか。

○竹部益世福祉部長

定期的に行っているものではないので、議会への報告の仕方については、考えさせてください。

○渡邊昭司副委員長

今回の課題について、参考になるようなものがあれば、共有させてほしいといった趣旨でしたので、報告内容については、精査していただければ結構です。

○竹部益世福祉部長

今回のアンケートでは、やれなかったことを次回のアンケートに組み入れてはどうかといった提案を閉会中のテーマの提言報告の1つとしてもよいのではないかと思います。

○坂井美穂委員長

ほかにありませんか。

【「なし」との声あり。】

○坂井美穂委員長

ないようですので、次に、介護サービスの最適化について、当局よりご説明いただきます。

○大崎千尋福祉主事

(介護サービスの最適化について資料に基づき説明)

○坂井美穂委員長

しばらく休憩します。

休憩 午後2時26分

再開 午後2時27分

○渡邊昭司副委員長

会議を再開します。ただいまの説明について、ご質疑があればお願いします。

○坂井美穂委員長

ケアプランチェックを年間10件から30件行われているとのことですが、改善指導のケースはどれくらいありますか。

○沢田義行高齢介護課長

細かな件数は、本日は持ち合わせておりませんが、数件出ています。

○坂井美穂委員長

ケアプランチェックが入るタイミングは、ケアプランが動いている状況のものをチェックするのでしょうか。

○大崎千尋福祉主事

動いているプランをチェックしています。見ているポイントとしては、課題からサービス提供までの一連の流れが繋がっているのかということと、介護保険制度の加算を取るための理由が、明確に記載されているのかなどを確認していると聞いています。

○坂井美穂委員長

AIを活用したケースを考えると、予後を考えてケアプランを作成していますが、ケアプランチェックでは、そこは確認しないということでしょうか。

○大崎千尋福祉主事

市の職員が、書類だけを見てそれがどこまで適正化ということは、読みとるのが難しいです。ケアマネージャーさんは、何度も訪問し、その方との関係を築きながら、性格、環境、家族の状況など、様々なことを考慮してケアプランを作成しているため、見る部分としては、制度の中で整合性がとれているかを確認することが、ケアプランチェックだと考えています。

○渡邊昭司副委員長

しばらく休憩します。

休憩 午後3時02分

再開 午後3時03分

○坂井美穂委員長

会議を再開します。ほかにご質疑はありませんか。

○加藤美幸委員

ケアプランチェックはすべての事業者に行いますか。また抜き打ちで行うものですか。

○大崎千尋福祉主事

市内には24か所の居宅介護支援事業所があるため、1年で3～5事業所を回り、数年で24か所を回る形です。抜き打ちではなく、事前に訪問日時を調整し、事業所が、数件ケアプランを選んで提出していただいたものを、その場で内容について聞き取りを行いながら、確認していきます。

○坂井美穂委員長

ほかにありますか。

【「なし」との声あり】

○坂井美穂委員長

しばらく休憩します。

休憩 午後3時05分

再開 午後3時15分

○坂井美穂委員長

会議を再開します。引き続き、総合事業の概要の説明をお願いします。

○大崎千尋福祉主事

(総合事業の概要について資料に基づき説明)

○坂井美穂委員長

説明は終わりました。ご質疑があればお願いします。

○有留麻由委員

令和4年度の通所型サービスCは、1クールと2クールあり、88.5%の方が2クールまで受けているということですが、1クールと2クールで受けなくてもよい状態になる方は、どれくらいいらっしゃいますか。

○大崎千尋福祉主事

そもそもこの事業は、介護保険サービスのようにならずと使い続けるサービスではなく、集中的に短期間で行うサービスです。そのため、サービス開始時に3か月後、6か月後に自分がどういう状態に戻りたいかを決めて、3か月または6か月で終了するサービスです。その後1年程たって、機能低下がみられるようであれば、再度使っていただくといったサービスです。2クール目に行くかどうかは、本人希望ではなく、ケアマネジメントの中で必要であれば、サービス事業所と、ケアマネージャーと、利用者の3者で話し合っ決めていきます。

○渡邊昭司副委員長

総合事業は、各自治体で独自性があるということですが、半田市は介護事業所が多い中で、事業所が多いことを活かすことと、短期集中のサービスを推進していくことのバランスについて、考えがあれば教えてください。

○沢田義行高齢介護課長

そもそも、介護予防生活支援サービス事業は、介護人材の不足が全国共通の課題であり、訪問サービスについては専門職ではなくてもできる事業を進めている状況です。通所サービスについては、接骨院や外科の力をいただき、介護サービスを利用しなくても、機能改善や生活支援ができていければという仕組みであると考えています。

○渡邊昭司副委員長

確認ですが、サービスを受けたい方に対して、受け入れる事業所は足りていないのでしょうか。

○大崎千尋福祉主事

訪問サービスについては、事業所に対してサービスを受けたい方が増えてきているため、なかなか回っていない状況です。通所サービスについては、近隣市町に比べ事業所が多く、足りていないとまでは言えません。

○竹部益世福祉部長

あまり施設やサービスが充実してしまっていると、結果的に利用が上がり、介護保険料が上がることにつながります。委員長が言われている、通所Cについては必ず推進し、その後介護保険のサービスにもっていくという流れが、一番理想ですが、それには相当な人的資源が必要であり、それをさばききれぬのが課題です。65歳以上の方全員にチェックリストを配って、把握できるのが一番良いですが、それには膨大なコストがかかるため、残念ながらそこまでは難しいという中で、私たちもジレンマを抱えていますので、そういったところを今回勉強できれば良いと考えています。

○坂井美穂委員長

ほかにはありませんか。

【「なし」との声あり。】

○坂井美穂委員長

ないようですので、これで終了します。ご説明ありがとうございました。本日勉強したことを今後の視察に活かしていきます。

次に視察についての確認です。県内視察については、候補地は豊明市です。豊明市は総合事業について先進的に取り組んでいる自治体です。候補日時は、11月7日（火）午前または午後です。決まり次第お知らせいたします。県外視察の候補地については、武蔵野市、八王子市、生駒市、大東市、堺市、甲賀市です。

以上で本日の内容はすべて終了いたしました。委員から、何かあればお願いします。

【「なし」との声あり。】

○坂井美穂委員長

ないようですので、これで文教厚生委員会を終了します。

閉会 午後4時21分